

でやっているんですから。お願いします。ボランティアで実践しております」

記者殿「この社員代表というのは、何歳からですか」

吉村親房「26歳から29歳でございます。下関漁港生産卸売市場に奉職しましてね。この改革が、漁港の振興がかかる大変な事です。あの私、何度も命落としかけたんですけど、社長さんが、社員代表である私に会わないといけないという労基法の定めがあるんですよ。社長室の戸をトントンと叩けば、『お前、社員代表をもう一回やってくれ』とですね。13回連続でやりました。私13回、(下関漁港生産卸売市場の)社員代表に選ばれています。

記者殿「県議選は、補選を含めて19回立候補ということですか」

吉村親房「はい、19回連続でございます。これはあの、供託金をご返還頂きましたから全部、それがあつたわけですね。供託金をご返還頂くから次の供託金にさせて頂いている」

記者殿「1971年からよろしいですか」

吉村親房「はい、29歳の時ですから、昭和46年から立候補です」

記者殿「県議選以外の選挙の立候補はないということですか」

吉村親房「はい、一切していません。県議選一本です。理由がですね。私が取り組んだ漁港はですね。県の管轄なんでございます。御婦人の108名を雇用関係決めましたけど、御婦人の地位を確定させ、待遇を確定さすにはね、県の議会に登らなくちゃいけない事情を抱えていたんですね。それが(県議選に立候補の)私の理由です」

「そして、なぜ19回やるか言いましたらね。これ本当、個人的な事情もありますけど、最初当選の票を頂いて、当確が出て当選したのにね。取り消されたという無念と、それは私だけではなくて、御有権者も御存知なんです。でなければ、こんなに票は続きません。ですから、私は御有権者に応えるためにですね。当選してですね。お応えしないと御有権者も精神がすっきりしないという気持ちでエネルギーが出るわけですね。個人的に当選しようと思つたら、ここまで続かないと思つます」

記者殿「空中戦があつたということですが」

吉村親房「そうでございます。私、書面差し上げていますね。空中戦があつたんです。ここで。関門海峡があるでしょ。第二次世界大戦の空中戦見ているんです。この下関の上で。大変でしたよ」

記者殿「内容確認です。過去職について」

吉村親房「過去職。この選別御婦人の物凄くこれ女性の人権で大事なことでございますが。いかがでございます。物凄く内容大事ですよ。それは皆さんお任せします。大事だということをお申し上げております」

「それであの皆さん、これ分かってください。改正市場法を私やり上げた男です。改正市場法が出てからね。全国の生鮮食料品。お魚全部ですね。卸相場が、相場が、公表なされています。今日現在。それは衆参両院物価連合審査会に私の書面が登つたわけです。党派を超えて、ですから安倍晋太郎先生がですね。私に林義郎先生が県議という以上のお言葉下さつた